民報
おうしゅう
読者版

発　行
赤旗奥州出張所
水沢大手町３丁目 59
Ｔｅｌ ２４−２０２１
Ｆａｘ ２４−２０４９

郷右近新市長は、倉成前市長の「未来羅針盤図」事業をどうするのか？

6月25日、第二回定例会が閉会しました。
今週号も引き続き、日本共産党議員団の一般質問の概要をお伝えします。今回は、今野裕文議員の質問です。今野裕文議員は、市政運営の考え方（倉成淳前市長の掲げた「未来羅針盤図」にかかわる事業の今後のあり方、財政運営の考え方等）についてと、今年の春大きな被害が発生した稲の苗の細菌病の被害の実態と対策について質しました。


今野裕文議員

今野裕文議員は、郷右近浩新市長が、前市長の政策に否定的発言を繰り返していたと思うとして、前市長が掲げた「未来羅針盤図」事業について、新市長としてどのようにするのか質しました。

「どうしたらできると考えていたのか」からの検討になる

郷右近浩市長は、次のように見解を明らかにしました。
「未来羅針盤図」事業には、地域医療、公共交通、市街地開発、奥州湖周辺開発、小さな拠点事業があります。改めて、今後の事業継続の可否を判断し、取り組む場合は、どう取り組むか精査検討を進めている。
江刺市街地開発については、民間ＰＦＩ方式で、「民間を巻き込んで進める」としているが、どうしたらできると考えていたのか、そこからの出発と思っている。

財政危機を強調しているがどのように考えているのか

今野裕文議員は、財政状況について危機感をあらわにしているが、具体的にどのように取り組むのか質しました。
また、財政調整基金（市の預金に相当）は標準財政規模（令和６年度：３５０億円）の２０％（７０億円）必要だとしているが、他では聞いたことがない。そうなると新しい事業はできなくなると思われるが、その根拠は何かと質しました。

財政危機を強調しているがどのように考えているのか

郷右近浩市長は、次のように答えました。
歳入の安定確保と歳出の削減にさらに取り組む必要があり、具体的には次期行政経営改革プランで示します。財政調整基金については、長期財政見通しでは標準財政規模の１０％としているが、「災害等の有事を考え」さらなる上積みをしたいとして、根拠は示しませんでした。

水稲苗の立ち枯れ・細菌病の被害と対策について

今野裕文議員は、今年の春、水稲育苗なえに多くの苗立ち枯れ・細菌病が発生していることについて取り上げました。農家の中には、「２月に指導機関が多発を予測し注意報を出しており、種子を配布する際など周知してほしかった」との声が上がっているとし、その被害状況と被害を受けた農家への支援策を尋ねました。


↑羅病苗による欠株


羅病水稲苗

農家への支援は予定していない

郷右近浩市長は、岩手ふるさと農協管内は１５２００箱、岩手江刺農協管内は約４０００箱を廃棄処分している。被害額については調査中で、両農協とも必要な苗の数量は確保され、米の収量には大きく影響しないことから、被害を受けた農家の支援は予定していないと回答しました。

種子配布時に周知をすべき

今野裕文議員は、種子を配布する際など注意を喚起すべきでないかと重ねて質しました。

研究したい

担当者は、両農協とも座談会などで周知したのですが、出席者も少ないので、農家の情報収集する手段等について研究していくと述べるにとどまりました。

19日（日）ペンライトデモに、40人が集う

国民大運動胆江地区実行委員会（小原隆穂議長）主催のペンライトデモが開かれました。
19日午後6時からZプラザアテルイ交差点で、ペンライトデモが行われました。
この行動に約40人の人々が参加し、デモカレンダーを見て参加したという、仙台（1人）、平泉（3人）の人もおりました。
戦争反対、憲法改悪反対などとコール。最後は高市ヤメロ！の大合唱で終わりました。



